

第19回県政ひざづめ談議結果概要

- 開催時間：平成23年3月16日 14:30～
- 開催場所：県立青少年センターリバース和戸館
- 対話グループ：YYプロジェクト推進委員会ほか

○司会

それでは大変、お待たせいたしました。
知事が到着いたしましたので、県政ひざづめ談議を始めさせていただきます。
まずはじめに、横内知事からあいさつをお願いします。

○知事

皆さん、こんにちは。
それぞれお忙しいのに、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。
ちょっと遅れて申し訳ありません。
東北地方へ救援物資をどうやって送るかという話を、今、相談しておりまして、遅刻いたしました。

皆さん方には、YYプロジェクトという、私どもがお願いして大学生の皆さんに参加していただいて、甲府市中心街の活性化の問題とか、そういうのを若い人が知恵を出して、力を出して、やってみてもらいたいと、そんなプロジェクトを立ち上げたわけではありますが、そのYYプロジェクト推進委員会に参加していただいて、いろいろな活動をしていただいているわけでもあります。

そういった活動の中で「やまなしの翼プロジェクト」というようなものを立ち上げていただいたり、活発にいろいろなご苦勞をしていただいているということに対して、心からお礼を申し上げたいと思います。

皆さん方が学業だけではなくて、この地域のことに積極的にかかわっておられる中で今日はぜひ、この山梨県について、これからどうしたらいいか、いろいろなお考えをお持ちだと思いますが、そんなことも忌憚なく、ざっくばらんにお聞かせいただければ、ありがたいと思うわけでもあります。

ぜひよろしくをお願いします。
今日はどうもありがとうございました。

○司会

それでは続きまして、本日同席しております、県の担当者を紹介させていただきます。

青少年活動などの推進を担当しております、上笹・社会教育課長です。

○社会教育課長

上笹でございます。よろしくお願いします。

○知事

電車があまり動いてないんですが、何で来たんですか、皆さんは。

○参加者

僕は甲府の丸の内に住んでいるので、電車で通っています。

○参加者

車です。

○知事

帝京科学大学ですか。

高速道路は何も問題はなかった。

○参加者

はい。

○知事

大変だよ、だけど。

こうやって見ると、静岡の人、新潟の人もいる。新潟は、新潟地震、大変だったですね。

○参加者

はい。実家のほうも大丈夫でしたので。

○知事

実家のほうね。

中越地震のときは。

○参加者

中越地震のときは、実家のほうにいて、本棚が倒れてくるとか、家の中がぐちゃぐちゃになりましたけれども、たぶん山梨県の方からも支援をいただいたかと思いますが。

○知事

そうですね。

しかし、特に今度の地震は大変ですよ。

範囲が広いからね、大変だ。

山梨県も東海地震だとか、場合によっては富士山の噴火とか、そういう心配が非常に高まっているということもあるので、人ごとではないですから、我々も本当にいろいろな支援活動は一生懸命やるということで、これを教訓にして、地震対策を一層強めていきたいと思っています。

それはともかくとして、何でもいいですから、この YY プロジェクトへ参加して、いろいろなことにお気づきになったこととかあると思いますが、そんなことについて、何でもいいですから、お話をしてみてくださいか。

○参加者

僕は YY プロジェクトの今年度の実行委員長をやっているんで、それで今回は朝日通り商店街で、産・学・官・民・金融・メディアのそれぞれの機能とか役割を、まちの活性化に生かしていこうということで。

○知事

ニギヤカシ委員会とか、いろいろ。

○参加者

はい、そうです。いろいろ事業を分けて、ミエカタ事業、これは景観形成で、

イバシヨ事業という事業もあつたりとか、あとはさっきのように、ニギヤカシとか、伝え方。これは情報発信の事業、そういうように事業ごとに分けて。

○知事

朝日町は、そこそこの商店街なんだけれども、商店街の皆さんは協力してくれますか。

○参加者

そうですね。最初は結構、無理やりお願いしにいったような感じ、あまりいいイメージは持っていなかったんですが、でもえびす講祭りのときに、商店街の方々と一緒に何かをしていこうというような会議をいろいろと、焼き芋を作ったりとか、あとは各種企画を考えるときに、いろいろと議論していったんですが、そうやって議論をしていって実行して、当日に大成功を収めて、そこから何か本当に商店街の方々が協力的になったというか、いろいろと僕たちの話も聞いてくれるようになりました。

○知事

焼き芋をやったの。

○参加者

商店街のシンボルのハナミズキの落ち葉を使って、それで焼き芋をやりました。

○知事

学生が大勢来たんですか。山梨大学の学生とか。

○参加者

そうですね。いろいろと協力してもらったりしました。でも、その商店街、学生が、というわけではなくて、学生も一緒に商店街の方々と協働しながら、すべて実行してきました。

○知事

なるほど。そうですか。
では今、期待されているわけですね。

○参加者

そうだと思います。

○知事

これは4月からやろうという。

○参加者

今後も継続的にやっていきたいと思っていて、YYプロジェクトとしては、3月末で終わりになってしまいますので、YYプロジェクトから誕生したのが、ASH 7 (アッシュセブン) といって、これは朝日通り7者コンソーシアムの略ですが、これが先ほども言った、産学官民金融メディアコンソーシアムなんですが、それは今後、4月以降も続いていって、朝日通り商店街の活性化に関して7者で考えていくと。

○知事

これは素晴らしいですね。
いろいろニギヤカシとか、そのミエカタとかああいうものを作って、一番成功

したのは何でしょう。やっぱりイベントですか。

○参加者

一番成功したものでですか。

○知事

やっぱり焼き芋かな。

○参加者

でも、そのイベント自体、すべてが本当に商店街の方々と初めからすべて実行していったので、それが一番やっぱり何に関しても、商店街の人と話し合いをしたということが、一番の成果かなと思います。

○知事

あれは古い商店街で、結構、ずいぶん早い時期に、20年ぐらい前に街並みをきれいにしてあるんですよ。

まとまりのある、いい商店街、古いね。本当にもう10年も20年も前から。

しかし、あまり交通の便がよくないし、お客さんもそんなに多くはないんだけど、しかし結構みんな一生懸命やっているよね。この店主さんはね。

これはなかなか立派な、甲府のこっこのほうの中心の商店街よりは、まだまとまりはいいかもしれませんね。何とかしなければいけないという気持ちが、非常に強いのかもしれませんね。

その朝日町プロジェクトで何か気が付いたことはありますか。

○参加者

そうですね。僕が今、朝日町商店街のこのYYプロジェクトで、イバショ事業として、小売店をちょっとやらせていただいて。

チラシを、こういうような形なんです。

○知事

あなたは大学何年生ですか。

○参加者

僕は宝石美術専門学校を卒業しまして。

○参加者

今その小売店をやらせていただいているんですが、若い人向けの商品が多いので、やっぱりそれなりの、あそこだと看護の大学生だったり、梨大の子だったり、いろいろな大学生の子がちょっと遊びに来てくれたりということで、今までにない、朝日通りの人たちもちょっと取り込めたかなということ、少し。

○知事

お客さんは女の子ですね、これね。

○参加者

そうですね。少し女性寄りですね。

○知事

ジュエリーもやっている、多少。

○参加者

はい。アクセサリーはほとんど。

○知事

割と安いものをね。

○参加者

そうですね。安いものからシルバーアクセサリー。ちょっとジュエリーというような商品はなかなかあれなんです、扱っているもので県内の職人さんが作った石が・・・。

○知事

あなた自身は作るんですか。

○参加者

僕自身は作ったりはしないんですが。

○知事

マーケティングのほう、どっちかというと。

○参加者

そうですね。小売で。

○知事

いいね、これね。

○参加者

県内の貴石の会社があるんですが、そことコラボでジェミューというブランドを立ち上げて、それも東京のほうにいるモデル、読者モデルさんたちを絡めて、ジェミューというブランドでやっている。

○知事

こういうものがはやるんですね。
インターネットでもやっているんですか、これは。

○参加者

カタログのほう、ホームページでもやって、その下のほうにアドレスが載っているとありますが、今、学生とか若い人たちでやっているの、少し、全部完成ではなく、徐々にやっていっているんですが。

○知事

知っていますか。

○参加者

はい、知っています。

○知事

買ったことはある。

○参加者

消耗品でないものは、そんなに何回もは買えないかな・・・。

○知事

これはいいですね、なかなかね。

○参加者

そうですね。
やっぱり若い人たちは来るんですが、商店街自体にそういう若い人たちがあま

り来るようなところが、今のところ少ないので、例えばこういうお店をもう少し増やしていけたらなど。

○知事

山梨大学は少し遠いんだけど、県立大学はそんな遠くないし、高等学校もね、甲府一高だとか、それから駿台甲府とか、いろいろあるんですよね、あのへんにね。

○参加者

そうですね。

○知事

だから若い人は結構あのへんにいるんですよね。

○参加者

なので、やっぱり1店舗だけだと厳しいなということ、ちょっと感じたり。もう少しいくつかあると、やっぱり居場所として本当に流れるのかなということを感じたり、あとはやっぱり若い人たちの、自分みたいにやっていきたいという人たちがいるんですが、やっぱりそういう人たちのネックとしては、資金がなかったり。

○知事

お店が高いでしょう、家賃が。

○参加者

そうですね。

もう少し県とかで、もしあれば。

○知事

開業資金というのは、若い人の場合には商工会議所であるんだろうね。あまり高額ではないけれども。

まずは、店舗を安く借りられなきゃ駄目なんですよ。

甲府の中心街なんか、みんなたぶん閉めているでしょう。それを安く貸してやってくれと、若い人に。家賃が安ければ、そういうところで商売したいという若い人が大勢いるんですよね。家賃が高いんだよね。

みんな、そういうお店を持っている人は困らないから。ちょっとした駐車場をやってみたりとか、裏にアパートか何か持っていたりして、生活に困らないものだから。店舗を積極的に貸そうという気持ちにならないんだね。

だから、もう中心市街地というのは1回閉めれば、そのまま閉めたほうがいいんですよ。これが駄目なんだな。若い人がどんどん入って来られるようにね、安く店舗を貸してやれるような店があると、一番いいんだよね。

頑張ってください。

あなたは。真ん前に座っているけれども、何か役をやっているんですか。

○参加者

最初の山梨若者地域活性化プロジェクトに・・・。

○知事

20年の。

○参加者

そのときにイベントをやらせていただきまして。
今は千葉県の大学で、いろいろと。

○知事

当時は高校生だったんだ。

○参加者

高校生です。

それで今、県外でいろいろな情報を取り入れながら、非常に幅広い学習をしています。それは例えば1つの学科、普通こういった県にある、1つの学科で1つの分野についてやるのではなく、あらゆる分野を勉強して、それからいろいろなものをやるという。例えば地震も含めまして環境生態系、さまざまな分野を学んでいます。

それで、私が今、山梨県の観光、地域活性化の魅力について、非常に県外に出て思ったことなんです、実は県外の若者、大学生も山梨県には非常に興味がありまして、ものすごく合宿などで山梨県に来る機会があります。

実際に私たちの部活なんです、今年の夏に山梨県に合宿に行きます。

○知事

やっぱり山中湖でしょう。

○参加者

多くの部活動で合宿に来るんですが、実際は甲府盆地には来なくて、山中湖とかで3日か、4日間を過ごして、富士急ハイランドへ寄って帰るという形です。

やはり富士急ハイランドが非常に魅力的で、ほかの県外の方に聞いても、ディズニーランドの次に、日本ではアトラクションでは富士急ハイランドが魅力的だというランクです。

○知事

中国人にとっても、そうだもんね。

富士山を見て、富士急ハイランドとかね。

○参加者

その若者とか観光客、どうせ富士急ハイランドや富士山に来るのだったら、それを武田神社なり、山梨の魅力にもっと近づければ。

○知事

若い人がこっちに来るのには、どうしたらいいですか。

来ませんね、武田神社にはね。

○参加者

僕の友達もこの間、山梨、富士急ハイランドや向こうに来る機会があったんですが、やはり交通の便がよくないと。ツアーで来るしかないということなので、バスを借りて。向こうの人は車がないので、自由に動けないのです。なので、1つの手段として、バスをたくさん、できるだけ安い値段で運行するということ。

それと、あとはリニアが完成することですが、新しい路線が開発されるということで、成田空港に都内からスカイアクセス、京成電鉄、新しい路線ができました。

たが、そのときにJRとものすごい競争になったんです。

同じことを山梨に起こせば、リニアの開発と並行して、JR東海とJR東日本と、そして向こうの私鉄を取り入れれば、ものすごい競争になるのではないかと思います。

そういったアクセス網を強化していくことによって、今回の地震などでも高速道路が寸断されました。やはり通行止めになりましたが、物資の早い輸送、早い人と人との交流が可能になると思います。

○知事

リニアは15年先ですけれどもね。JR、皆さんが生きている、私なんかは生きてはいないけれども・・・。

JR東日本は、なかなかやっぱりスピードアップをしろと言っても、非常に山、また山のところですから、お金がかかるものだから、なかなかできないんですよ。

私鉄を入れ込むといっても、なかなか・・・。

一時期は新宿から出ている小田急線と京王電鉄がずいぶん関心を持っているんですよ、山梨のほうにね。だけど結局やめてしまってね。

しかし確かに足がね。公共交通機関が少ないというのは、マイナスはマイナスですよ。

それに甲府盆地にあまり魅力がないんですよ、若い人たちにね。

何かあればいいんだけどね。

○参加者

今、向こうでは歴女というものが非常に多くてですね。武田氏の城、やはりそういう武田氏の甲府の本部があった場所としては結構魅力があると思います。

○知事

歴女は確かにそうですね。

あなたは山ガールのほうかな。富士山に登ったりとか。

○参加者

やっぱりジュエリーとか、あとは県内で織物が盛んなので、そういうものをよりよくPRできたりすると、女の子は別に交通アクセスが悪くても、ほしければ来てしまうと思いますので、もっと女の子にちゃんとPRできる方法があったらいいかなと思います。

あと山梨県は自然が豊かなので、その自然と触れ合えるということをもっとPRして、何かあるから来るというか、人と触れ合える、自然と触れ合えるから、山梨に来ようというのが目的意識に持つ人もいますし、なので例えば人が、若い人たちがいないと困っているような、山のほうとかで宿泊体験ができるとか、そういうことをもっと整備したら、都会の人たちも物がなくても来るんじゃないかなと思います。

○知事

非常に大事なところで、県庁もそういうことには多少気が付いていて、今までは山梨県の観光キャンペーンは「週末は山梨にいます」というキャンペーンなん

ですよ。これはなかなかいいことだね。東京に近いんだから、東京の皆さん、週末は山梨に来てゆっくり過ごして、癒しを感じてくれませんか。

週末というのには、もう1つ意味があって、これは人生の終末という意味。終わりの方の終末、定年退職したら山梨に来て、二地域居住なんていっているけれども、第二の人生を過ごしたらどうですかという意味で、「週末は山梨にいます」とやっているわけです。

しかし、これはちょっと年寄り、中年以上を相手にしていてね、どうもちょっと元気がないと。それで今、「ビタミンやまなし」というキャンペーンをやっているんですよ。これは東京のアラサー、アラフォーをターゲットにしているんですよ。あなたは、まだアラサーになっていない、もうちょっと若い。

そのアラサー、アラフォーの女性をターゲットにして、ジュエリーがあったりワインがあったり、果物があったり温泉もあったりするし、割と女性が好むものがいろいろあるんだから、若い女性にたくさん来てもらおうじゃないかということ、今、一生懸命やっていて、いろいろ東京の女性誌、フラウなんてあるでしょう。ああいうものに盛んにPRして、結構来るようになっているんですが、それで若い女性がくれば若い男もついて来るから、それに期待してやっているんですが、いまひとつなんだね。やっぱり若い女性に魅力を感じていただくにはね。

そうしたら、何をやったらいいかということですね。

しかし皆さん方は、まだ19、20だから、あまりお金もないけれども、30代前後の女性というのは、お金があってすごい購買力があるらしいですね。しかもロコミがすごくて。

だから、あなたが言ったような、いいものだとすれば、パーッと集まって。

○参加者

ツイッターとか雑誌に載っていたもので、そういうものでかわいいとか、ここがおいしいとか、そういうもので山梨の魅力をPRしていくと、もっと集まると思います。

○知事

そうですね。

ほかにありますか。

○参加者

さっきの話じゃないですが、伝統産業活性化ということがテーマとしてはありまして、伝統技術を残すか、近代化させるか。

それで先ほどちょっと彼と一緒にやったという、そのジェミューというブランドをつくったとき、都内に若いモデル達の会社があって、その子たちが地域貢献したいという話になって。都内にいるモデルたちは、もともと地方出身の子で、それで、じゃあそこの若い子たちの感性と、こちらの伝統産業を掛け合わせてみようということで彼女たちを実際にこっちに呼んで、5代続いているステンドグラスの会社さんと組んで、その事務所に行って、それでみんなで石を選んで作ったんです。

その中の1人には1日20万アクセスあるブログを書いている子もいます。そ

の子に山梨県のジュエリーとかということを発信してもらったんですよ。

それで、若いファッションリーダーが発信することによって、甲府とりもつとかあとジュエリー、女の子にここがいいとか騒がして。そうするとそれなりにこっちに注目が集まるという。

売り方がへたくそな県といわれているので、若い子たちを巻き込みながら、参加型にしてしまえばこっちにかかわりますから。

○知事

若いそういう、まだモデルの卵みたいなモデルの、ジュエリーか何かのファッションショーでもやるかな。

○参加者

そうですね。それは面白いかもしれませんね。

○知事

そうですね。それはぜひ広めてもらいたいですね。

○参加者

あとは、今この子たちも言った、北杜市上笹尾で、活性化に若い人たちが入って行って、そこで観光資源をフルに使って、ツアーをつくらうとか。農業の6次産業化というところを目指しているのです、その地域で取れるものを若い人たちと一緒に、食の開発をして提供するようなサービスをするようなところとか、そういうものをやまなしの翼のメンバーで作っているんです。

東京の慶応の学生さんとか、東大生とか、早稲田とか、そういう人たちもかかわって。

○知事

何で上笹尾になったんですか。

○参加者

限界が近づいているエリアなんですけど、それにしてもアクセスもいいですし、資源もたくさんあると。学生さんたちが夏に上笹尾に一週間ぐらい泊まって、泊まり込みで、民泊しながら、地域での勉強なんかをしたんですが。

○知事

その地域のほうの受け皿があるんでしょう。誰か熱心な方がいるんでしょう。

○参加者

そうですね。観光のキーパーソンがいて、その方は区長さんが先頭に立って。

○知事

それはしかしいいですね。

それは何というプロジェクトですか。

○参加者

まだ構想中というか・・・。

○参加者

上笹尾、下笹尾とあるんですが、昔は笹尾と呼んでいた、笹尾村というものを、もう1回復活させようじゃないかと。

○知事

あなたもそれを一緒にやっているんですか。

○参加者

そうですね。

○参加者

彼は「凱風快晴」という、サブカルチャーのイベントをやったんですが、イベントというより青少年健全育成のテーマにした……。

コスプレと展示即売会という企画になっているんですが、なぜやったかという……。

○知事

これはいつ、2010年だね。22年。

○参加者

一見、萌えているようなイベントなんですが、実際の目的としては、今、引きこもりだとか、ネットゲームばかりして家にずっといる人とか、そういった人たちを外に連れていくのをきっかけとして、連れてきて、そこで我々からもうちょっと社会に貢献、というか、社会に出て行く、そういったメッセージを伝えるためのイベントとしてやりました。

実際、当日は1千人近くの人も来てくれましたし、そういった方々も。

○知事

護国神社でやったんですね。

○参加者

出身地とか聞いてみると、山形とか、そういった遠くからも来てくれたという。

○知事

それで学生さんで。

○参加者

そうです。学生が多いです。

○参加者

運営は学生でお客さんは全国各地から。

○知事

凱風快晴フジヤマボルケイノ、意味があまりよく分からないけれども。

これは梨甲祭とのコラボレーションもあると。

○参加者

そうです。学園祭と同じ日にやったので。

要は引きこもりの子たちとかということテーマにしていまして、コスプレとかも実は閉ざされた空間というのが一般的なんですけど、今回これはもうオープンな場所でやりまして、山梨大学まで出歩いてもいいよという、そういう普通ではあり得ないようなシチュエーションにしたと。

引きこもりという子たちとか、その社会で課題になっているといわれている子たちと対話をするための企画。

○知事

そういうことは全然ここへは書いてないですね。書いてなくても分かるんです

か。やっぱりホームページか何かで分かる。

○参加者

しかも、その協力体制がすごく、山梨県の教育委員会さんと文部科学省が、文部科学省の青少年を取り巻く有害環境対策推進という事業で、これを実施したんですが。

○知事

そうですね、これは面白いですね。
イラストレーター、松本則之さんと書いてある。

○参加者

この方も本当にそれのみ興味あるというか、家とイベント会場しか往復しないというか、そういう方で、絵は描けるんですが、ほかのことはしないという。

○知事

これは面白いですね。これは今年はどうですか、できそうですか。

○参加者

すごいやってほしいという声もかなりいただいているんですが、なので次にまた同じようにやれば、かなり来ると、期待はできますね。
運営体制を整えていければ、できると。

○知事

ぜひ頑張ってもらいたいですね。
これは文部科学省からもお金が多少入ってくるわけですか。どのくらい入ってくる。

○参加者

そうですね。額はたいしたことはないです。
あまり使わなかったですね。

○知事

この広報、PRもインターネットでやったわけですか。

○参加者

そうですね。インターネットと、あとはこういったたぐいのイベントは、東京だとかいろいろなところで行われるので、それに実際に足を運んで、そこで広報しました。

2日間で100万人ぐらい。

○参加者

山梨の人口よりも2日間のイベントで来るんですよという、こういうですね。

○知事

そういうイベントがあるんだね。そこで配ったわけだ。
素晴らしい。

○参加者

かなり遠くからも来ていますから、観光でいろいろと苦労されているじゃないですか。こういう分かりやすいコンセプトとかあれば、人はどこからでも来るなということは、実験で分かります。

○知事

確かにね。

○参加者

僕は、まだそんなにこのプロジェクトにかかわってなくて、むしろ本当に個人で大学のほうに、いろいろやらせてもらっているんですが、もともと大学祭の実行委員長を務める経験がありまして、それまで本当にやるのが学生で、お客さんも学生でというような、ちょっと閉鎖気味だったものを、何かちょっと改善したいなということで、地域を絡めた大学祭づくりを推進してきました。

そのときに僕は今、青年会議所という団体に所属させてもらっているんですが。

○知事

そうですか、上野原の。

○参加者

はい。青年会議所の方から声を掛けていただくことが多々ありまして、そういった立場を活かしまして、何とか学生を活性化していきたいんだということになっています。

具体的に今、何をしているかといったら、皆さんの地域の貢献の仕方とはちょっと違うんですが、僕の大学というのは、すごく田舎にありまして、結構下宿しにくるんですよ。となったら、これは考えてみれば、4年間住み込みの、お客さんだと僕は思っているんです。

ある種、住み込みの観光。その4年間のサイクルが本当にいいものであれば、必ずまた何か休みがあれば、またちょっと行こうかみたいな感じで戻ってくると思うんですよ。

その戻ってきたときに、充実してほしいなと、ふと思って、地元住民との橋渡し役というか、そういったことをさせてもらっています。具体的に言えば、お祭りとか、小さいんですが、やっぱりちよくちよくあるんですよ、7月とか6月に。そういったところで商工会の方から声をかけていただいたときに、ちょっと今から祭りの手伝い、盛り上げていかないかみたいな感じで、何人か誘って行ったりとか、僕自身もまだ大学祭実行委員という組織に所属していますので、その子たちに声をかけて、「よし、お前ら、全員でちょっと盛り上げにいくぞ」みたいな感じで、たくさん引き連れて行って交流を促したり。

やっぱり愛着というのは、観光資源から生まれるのもそうだと思うんですが、何よりそこで得た人脈からも絶対に生まれてくると思うんですね。そのときに出会ったおばあちゃんとか、やきそばの焼き方を教えてくれたおじさんとか。その子たちが卒業しても、その人たちに会ってほしいなと僕は思って、とにかく僕は何とか充実した学生生活を送ってほしいがために、こんな活動をしています。

何にしても、甲府とかとは違って、上野原って、ちょっと今すごく寂しいんですよ。

なので、とにかくちょっとやっぱり皆さんは違った手法にはなってしまうんですが、僕は本当にできる範囲から言ったら、学生で上野原の魅力を伝えることで、上野原が活性化してくれたらなということ念頭に置いてやらせてもらっていま

す。

○知事

本当にあれでしょう。仕事もその人たちがやっているお祭りなんかは、積極的に参加してくれて、それを活性化してくれれば、これは自分たちにとってうれしいことだしね。

一番やっぱり地元とのつながりを、絆を深めるには一番手っ取り早いことなんでしょうね、それは。

○参加者

それから共通の価値観であるとか、そういったものも生まれてくれたらいいなと思います。

○知事

なるほど。ご苦労さまですね。

どうですか。

○参加者

僕は、この YY プロジェクトには去年末ぐらいに、直接担当者にメールをして、飛び入りで参加させてもらったんですが、その前に僕としてはボランティアをやっけていまして、年寄りの方と接するのが結構多かったんですよ。

そのときにお話をするときに、障害者の方とか、寝たままとか、やっぱり出てくるのは、自分たちが動ける範囲が狭いと。その中で甲府のほうで一応動いていたんですが、オギノが潰れて、買い物へ行く場所が減ったとか、やっぱり行くにしても車とか原付とか、そういうものに頼らなければいけない。

そうなってくると、事故が起こりやすいと。それがやっぱり怖くて出たくないというのが割と多いですね。

そうすると「週末は山梨にいます」というコンセプトとして出しているならば、人生の終末の人たちを呼ぶということであれば、その人が過ごしやすいようなまちに、まだなっていないと思っているんです。

その PR をしていく半面、こっちのほうで体制がまだ整っていない、実際に住んでいる人たちも、まだ足りないと思っているので、そこはやっぱり改良していかないと、PR しても、実際、山梨は全然安心して暮らせるまちではないよ、ということになってしまうので、そこは整えないといけない。

○知事

どういう点が一番足りないと思いますか。

○参加者

道路に面した歩道とかもそうですが、やっぱり歩いて行ける距離という。お年寄りはあまり遠出はしないので、歩いて行ける距離にちゃんとした生活の基盤としたものがあるというものがないと、いけないなどは・・・。

甲府にしても歩いて行ける、バスに乗るにしても本数も少ないですし、やっぱり荷物を持って帰らなければいけないということもあるので、気軽というか、簡単に行けるように。

○知事

割と甲府は病院は多いんだけどね。

○参加者

自分はこのプロジェクトに直接かかわっているわけではないんですが、大学1年のころに誘われて、凱風快晴のようなイベントとかの手伝いとして、参加させてもらっています。

いろいろなイベントに、みんなと一緒ににはならないんですが、お手伝いという形で参加させてもらっています。

○知事

イベント好きなんだ、割と。

○参加者

はい。興味はあるんですが自分で何をしたいのか分からないんです。

○知事

とりあえずは参加して、こういうことをやったらというのが出てくるんじゃないですか。

今まで参加したイベントで面白かったのは、どれが一番面白かったですか。

○参加者

花菱祭という。

○知事

花菱祭ってなんでしょう。

○参加者

山梨中の大学生を集めて、みんなで山梨を盛り上げていこうと。

○知事

いつぐらいにやったんですか、それは。

○参加者

私は去年と一昨年に自分は参加させてもらって・・・。

○知事

どこでやるんですか、場所は。

○参加者

大学コンソーシアムやまなし。1年目が中心街で、結婚式をやった、学生結婚式をしたことがありましたね。2年目は小瀬で、3年目は緑ヶ丘だったんですが、そこで学生を呼んで運動会ですね。プラカードを持って、入場行進をやって、結構、単純な企画なんですけど、交流する機会がないので、それを彼らがつくって。

○知事

大学コンソーシアムでそういうことをやるのは、いいことですよ、これは。

○参加者

そうですね、学生交流会というものがあって。今年は何もやっていないみたいですが。

○参加者

つながりが、もっとうまく持てればなと思っているんですよ。山梨中の各団体、結構しっかりしている団体とかはあるんですが、うまくつながれてないのかなと

いうことは感じていて、個人的なことだと、自分が所属しているボランティア団体が、関係団体となかなか、県の行事に参加したいんだけど、なかなか連携が取れなくて。子どもたちとかも、そういうところに連れてきてあげたいんだけど、なかなか話がうまくまとまらなくて、つながりがうまくいっていない。

○知事

そういうことがあるんですかね。ボランティアなんていうのは、もう好き勝手にどんどん参加したりするけれども、そうでもないんですか。

○参加者

そうですね。
やり方が分からないということもあると思うんですけどもね。

○知事

あなたは何かボランティア活動をやっている。

○参加者

最近、力を入れているのは、ガールスカウト。

○知事

子どもたちの面倒を見ている。

○参加者

そうですね。高校生まで。

○知事

ガールスカウトというのは、今、活発なんですか、割と。ボーイスカウトはそれほどでもないんだけど。

○参加者

法人化されたりとか、いろいろ乗り越えているところですね。
リーダーが育たないんですよ。

○知事

隊員はどんどん少なくなってくるでしょう。

○参加者

少なくなっていますね。

○知事

そうですか、ご苦労さまですね。

○参加者

こういうところと結び付けたくて、自分から入っていった方がいいけれども、どう結んでいいかも分からないということがあります。

○知事

ずうずうしく、どんどん出ていったらいいじゃないですか。

○参加者

自分で描けないんでしょうね。何をしたら、こうと。

○知事

確かに難しいね。ボランティアは企画してくれる人がいればいいよね、うまくね。

○参加者

それも人不足で1人に過重みたいな形で、うまく回ってないところが・・・。
やりたい気持ちはあるけれども、やり出したら、その人だけで回していかなければならない感じですね。

○知事

そうですか。
あなたはいかがですか。

○参加者

何かみんなみたいに、そんなにしっかりした考えもないし、結構普通の大学生
と言えば、普通の大学生です。

何かどうしたらよくなるかとかまでは、あまり考えられないんですが、もともと
出身が愛知で、こっちに来ているわけですが、そこで思ったのが、まず県庁所
在地なのに、人が少ない。電車の本数も少ないから、実家に帰るときも、こっち
に来るときも、すごく時間を調べなければいけない。面倒だということもあるし、
あとお土産も1回買ったら、買うものがない。信玄餅は名物だろうけれども、ど
こにでもあると言えばどこにでもある。ただ、餅にきな粉をまぶしただけという
感じで、買っていても、これどこにでもあるじゃん、地元の人に言われたり
するし。ワインは結構喜ばれるんですが、親に買っていくと。

だから、お土産のリピーターがないのかなというか、何か1回買って行って終
わりで。

○知事

有名なお菓子というのは、あまり、そう言われてみると、信玄餅だろうね、やっ
ぱり。

○参加者

でも、名前が違うだけで形が一緒というものがいっぱいあって、これと言える
お土産もないし、あと商店街の人が少なくてびっくりして、地元の商店街とか結
構食べ歩くという感じも多いので、服屋さんがたくさんあったりとか、それで人
が少ない。朝日町でやっていて、人が少ないことにもびっくりしたし、食べ歩き
ができないこともびっくりしたし、結構衝撃が大きくて・・・。

それであとリニアができると言っても、甲府にできたら、甲府から逆に出てし
まいませんか。みんな東京とかに行ってしまうし、仕事の交通の便がよくなるか
ら、出張とかも増えるだろうし、逆に来るより、来てもやることないから、みん
な出ていってしまうじゃないですか。

○知事

あなたは名古屋ですか。

○参加者

名古屋です。

○知事

名古屋も東海道新幹線ができたときには、東京都と大阪に引っ張られてしまう
んじゃないかと、ずいぶん心配したんですよ。確かに一時期、そういうことが

あった。けども、やっぱりプラスだったね。5年、10年してくるとね。

○参加者

それから、甲府に来る目的とかつくらないと、山梨は駄目かなと。でも、そうやって言っているけれども、山梨は絶対好きなのところがあって、小淵沢に1週間行ったんですが、すごく楽しかったので、山梨に就職したいと思うし、小淵沢とかに行きたいと思うので、何かもっといいところを、もっと伸ばして人が来ればなと思いますね。あとはお土産かなと。

愛知からも来てくれるんですが、1回は買っていったけれども、2回目はもう買うものがないじゃんって、ワインしか買っていかないみたいなの。

○知事

そうだね。お土産はそうなんだよ、あまりないかもしれないね。

桃・ブドウができる時期は、それはそのときはいいんだけどね。

○参加者

ほかの時期は何もないって言えば何もない。

何回買っても食べたいと思えるものがない。

○知事

名古屋はいろいろですか。

○参加者

いろいろはあまり好きじゃないんですが、愛知はゆかりのおせんべい、ゆかりってえびの味がすごく付いて、結構固めなの。

そのゆかりの袋を持っている人を甲府とかでも見るし、それは結構リピートがあって買うのかなと思います。名古屋に行っても、普通に食べたいと思うから、お土産としてではなくて、買いに行ったりはするし、おいしいですね。

○知事

みんな知っていますか。

○参加者

知らない・・・。

○参加者

たぶん、でも年齢層がちょっと上かもしれないですね。でも愛知の中では結構有名で。

○参加者

名古屋は食べ物の町というイメージがあって、おいしいものがいっぱいあるという。それでたぶんお土産が多いのかなと。

○知事

名古屋って言えば鳥だよな。それからうどんですか。

味噌煮込みうどんね。きしめん。

○参加者

全部結構おいしくて。すごい自慢じゃないんですが、でも比べるとやっぱり多いし、何回でも買いたいと思うものがあるかな、とは思いますがね。

○知事

工夫しなければいけませんね。

○参加者

山梨県って宝飾の街じゃないですか。けどやっぱり学生のときって、全然それが分からないんですよ。

○知事

知られてないものね。

○参加者

そうですね。

すごい技術を持っているのに、全然、若い人たち、宝飾のまちっていう感覚がないので、もう少しそういう面でPRの仕方をうまくできたら・・・。

○知事

ああいうジュエリーの3割は大体山梨でつくっているからね。

○参加者

そうですね。けど、やっぱりジュエリー、下請でつくることは多いんですが、やっぱり売ることがないので。

○知事

委託生産とか、OEM生産だからね。だからあまり知られてないし、すごく素晴らしいものをつくっていても、聞いてみると、宝飾業者さんってPRしないんですよ。あまりPRすると、高いものを扱っているから、泥棒に入られるという心配をして、あまりPRしないんだよね。

○参加者

だから、もっと県内でそういうものを売れる環境をつくったりとか、エンドユーザーに直接触れることがあれば、もっと認知度も上がるのかなと、すごい感じて、もったいないなと思いますね。

○参加者

私は、YYプロジェクトの組織の中には直接かかわってないんですが、私、山梨大学の大学院の1年で、今、まさに就職活動の時期なんですけど、自分の専攻はコンピューターなのでITとかを目指すと、まず職を探してみると、どうしても絶対数として都内に職が多いというのがありますが、ここにいる身としては、ここに就職するというのも念頭にはおいて・・・。

ただ、全体の業界としての調べて見ると、都内が多くて、やっぱり都内に出ないといけないんだろうなということになってしまうので、もっと県内の大学に県内の求人がいったらいいのになとか、こんな企業があるんだということも、もっと県内の大学に分かるように示したらいいんじゃないかなと。本当にその求人があるのかというところもあると思いますが。

○知事

確かに就職先がなかなかないということがあるよね。東京はまた近いから、簡単に東京へ出られるものだから、若い人はみんな出て行くんですよ。

○参加者

やっぱり地元の大学にいる人をここに就職させるということも、人口が減らず

に済むので。

○知事

しかし、やっぱり若いうちというのは、1回は出てみたいという気持ちもあるらしくて、私なんかもそうだったけれども、仮に地元がいい就職先があったとしても、やっぱり・・・。

長男だとか、そうなるともた話は別ですが、出るんだよね、1回はね。東京エレクトロンなんて、非常にいい会社があるんだけど、採用したくても、なかなか採用できないんだよね。

だから一部、エッチングという部分を仙台に移すようにしたんですがね。あなたはいい就職機会があれば、地元へ就職したいという思いはありますか。

しかしIT関係では、あるけれども、やっぱり仕事は東京だよね。その会社に勤めてもね。

○参加者

地元は長野なんですけど、甲府に出てきて、山梨の大学にいて、今回、東京へ。何か北口に情報拠点ができるのかという。できたらよかったのになと。

○知事

リーマンショックでおかしくなっちゃってね、困っているんですよ。怒られて、どうなっているんだって、いつも。

ITはまだちょっとまだ景気の回復が遅いんですよ。少し遅いですね、見ているとね。

○参加者

自分も漠然と都内に出てみたいという気持ちはあります。ただ、逆に言うと、やっぱり生産力というところは海外に回す傾向がありますし、その情報技術も結構あって、別に都内にいなくても、都内にいるような気分になれるみたいな、そういうところが結構あるので、そんなに都内にこだわることもないのかなと、自分の中で思っているんですが。

ただ、結局は仕事がないといわれはしないので。

○知事

そうですね。大きな課題ですよ。

○参加者

先ほどの県内の観光産業のものの魅力の話の続きになったんですが、山梨県ってやはり高級なものがたくさん、観光産業として有名だと思うんですよ。

昨年、部活動に山梨の土産でブドウを持っていきましたら、みんな目を丸くして、こんな高いものはほとんど食べたことがないという人が多くて。

普段、見ている中では、ブドウとか桃とか非常に身近な存在なんですけど、県外人にとってみれば、ものすごく高級品で、手が届かないから、魅力がある。それを手が届くような値段にすればいいかなと思います。

それと地域の産業、農業を成り立たせるようなバランスが非常に重要なかなと思います。今、向こうのほうでアウトレット、少し品物が悪くなってしまったけれども、一応値段を下げて売っているみたいなものを、やったらいいのではないで

しょうか。農家とかいくと、悪いものを全部落としてしまうみたいなことがあるので、そういったものが値段を非常に下げて、手が届く値段にして、来てもらって、食べて、さらにリピーターを増やす・・・。

○知事

桃のはね出しといって、ちょっと傷があれば、みんな跳ねちゃうんですよね。それはあとはネクターの材料。ネクターというジュースがあるじゃないですか。あれの材料でね、二束三文で買われていくんですが、それではもったいないと。むしろはね出し品のほうがおいしい物があるんだからね。そういうものは安くそれを売ったらいいということがあるんですよ。少しずつやっているけれども。

ほかのところはみんなやっているんだけど、山梨はあまりやらないんだよ、そういうことを。手間がかかるからね。

結局、一生懸命いいものをつくって、その桃の最高のものをつくって、せいぜい農家から農協を通じて市場へ出てくれば、1個300円ぐらいに。それが二千円で売れるんだよね、2千円で。東京へいくと。小売だとね。

だから、もう普通の方の口に入りませんよね。そういうものがこっちでは300円で農家が出しているんですね。

儲からないわけだよね。儲かるのは、みんなやっぱり都会のそういう卸売業者とか、そういう業者が儲かるというものだね。非常につまらないことですよ。

○参加者

やはり千葉とかだと、高級なピーナッツなんですよ、あつちは。学生はほとんど食べないと思います。ピーナッツをたくさん高いものを買っても。だったら中国製の柿の種のほうがおいしいじゃないかというぐらいなので、やはり山梨はそういった魅力的なものを安く、いけると思うので、いいのではないかなと思います。

○知事

そうですね。

あとはどうですか、ほかには。

○参加者

これは今、考えたんですが、あまり都内とかに、「週末は山梨にいます」とか、やまなし館とかいってやっても、私ははっきり言って、僕がもし、僕が山梨県民の山育ちですが、東京の人間だったとしたら、興味がないところです、山梨といわれても。

だから山梨フェアとか言っても、年寄りとかはいいんだと思いますが、若い人は「何だ、山梨は」とか、「別に山梨なんて興味ないよ」というぐらいな感じなんです。僕が山梨の人間で高知フェアに行くと言っても行きませんし、それと同じような感覚で。だから「凱風快晴フジヤマボルケイノ」みたいな感じで、若者だったら、もうちょっと間口を広くして、山梨と、大々的にアピールするのではなくて、こういうようなイベントとか、そういうものにちょっと山梨の良さを入れるような見せ方のほうがいいんじゃないかと思いました。

○知事

なるほどね。役所がやると、大体、山梨フェアだからね。確かに若い人はそういうことを言うね。

○参加者

だって、来る前、山梨の位置すら知らなかった。

○知事

たまたま試験に受かったから……。

○参加者

山梨って県あるのみたいなぐらいだったので、興味ある、ないの前に、知らない。

○知事

特に関西はね、名古屋以西というのは本当にみんなそうですよね。どこにあるのかって。よく会津若松とよく間違えられてね。内陸だからさ。

あなたは……。

○参加者

私は新潟です。

○知事

新潟だね。新潟は甲信越とって……。

○参加者

甲信越って、くくりとしては一緒なんですけど、山梨のことは全然知らなかった。位置も知らなかったですし、桃とかブドウの産地であるということとか、ジュエリーの産地であるということは、甲府に来て初めて知りました。

甲府駅南口を降りると、宝石の形の「ようこそ山梨へ」とあるんですが、あれが何を意味しているのかは、1年か2年してやっと知りました。

駅の周りで宝石が買えるかとか、何かそういうものを目にする、自分が買う、買わないは別として、目にする機会がないので、まず県外から来た人が、その知りようがそんなにないのかなと思いました。

○知事

そうだよ。

○参加者

最後に1つ。

全然、若者らしくない話をするんですが、今の震災のことにに関してですが、今実際にどういう現状にあるかということ、今は人命の確保ですね。その次にライフラインとインフラの確保になりますよね。次に生活環境の確保。その次に4つ目として教育環境の確保に入ってくるかなと、私は思っていて、今独自に動いているのは、里親みたいな形で子どもたちの環境を、こちらで受け入れられないかなというように考えています。

○知事

それは親をなくした子どもたちということですか。

○参加者

民ベースで個別に交渉を始めているんですよ。先ほどの上笹尾というところで

話をしたり、あとは甲府市へ話をしています、そこでそういった仕組みを知事筆頭に何か音頭を取ってもらえたらなど。

人命の確保が終わって、インフラ、ライフラインの確保が終わった後に、その生活するところをどこにするかとか、そうなったときに、子どもたちが、恐らく、取り残された子たちもいるでしょうと。

そうすると、その子たちの空白の時間を埋めるような手立てとして、山梨に手をあげてもらえるといいかなと。いろいろなところが、今、人が流れる仕組みはつくっているんですが、教育に関してはあまり目を向けていないので。

○知事

今初めて聞きましたね。言われてみれば、確かにそうですね。かなり、やっぱり親が亡くなってしまった子どもさんたちというのは多いだろうと思いますね。なんたって、2万人近い死者の中だからね。

○参加者

それで、きっとそのタイミング的に受け皿はとなると思うんですね。国としても。そうなったときに、山梨県がそうした受け皿になってもらえると、ありがたいと思っています。

僕は今から実は文科省に行くんですが、今からですね。

○知事

そのことで。

○参加者

そのことに関して。

なので、そういう話を僕たちもちょっと仕掛けをちょっとつくっていきますので、そこでもし可能な子たちがいるときに、県知事として、それをちょっと、では我々はというように言ってもらえると、ありがたいなと思っています。

○知事

そうですね。山梨県は割と里親に熱心な人が多いですね。里親の数は多いです、割とね。

だから当分、大震災で被災をして、親をなくした子どもさんたちを、里親で一つひ育ててくれませんかと頼めば、かなりの人が手を上げてくると思いますね。子どもたちは来るかな。

○参加者

そのへん、いろいろやらなければいけないところですよ。

○司会

それでは予定の時間となりましたので・・・。

○知事

本当に皆さん、いろいろありがとうございました。

若い人の感覚で貴重なお話をそれぞれ聞かせていただいて、こういうことを考えているんだなということが分かって、ちょっと目からうろこが落ちるような思いをしたことも、いくつもありますね。

しかし、それぞれやっぱり山梨出身の人もいたり、県外出身の方もいるけれど

も、山梨のためにそれぞれ一生懸命いろいろなことをやっていただいている、本当にありがたく思っております。

ぜひひとつ、これからも山梨のことをお願いしたいし、それから卒業すれば県外に出る人も多いと思いますが、山梨のことを忘れないで、どうかお願いしたいと思います。

あなたのように名古屋から来られるように、山梨へ就職できれば就職してもらえるとということであれば、大変ありがたいなと思います。

ということで、皆さんありがとうございました。

YYプロジェクトというのは、これからも皆さんは卒業したりしていくんだけど、続きますかね。

○参加者

はい、続くと思います。

○知事

役所のほうは何か、こういうようにやっていけば続くとか、何かありますか。お金って言ったって、そんなお金はないしね。

○参加者

お金は必要なかったです。今回あまり使わなかったの。

○参加者

お金というよりか、何を誰とするかということが大事だと思うので、今回そのASH7ということで、商店街の人だったり地域の企業の人たちと一緒にやっていくことで、お金もそんなにかからなかったですし、そうやってきちんと効果も生まれてきているので、継続していくことが重要なんじゃないかと思っています。

○知事

県の窓口は誰か若い人で、そういう熱心な人はいるんですか。

○社会教育課長

プロジェクトの事業の担当者がいまして、店舗を借りたりとか、そういうことを一緒に。できるだけ安いところを探したりとか。

○知事

若くて皆さんがいろいろ働きやすいようなことを一生懸命やる人がいてくれるといいね。課長じゃ駄目だからね。

○司会

以上をもちましてひざづめ談議を閉じさせていただきます。